

令和元年度第4回滋賀県総合教育会議 会議録

1 日時

令和2年1月16日（木）13:30～15:30

2 場所

滋賀県庁北新館5階5-B会議室

3 出席者

三日月知事、福永教育長、土井委員、藤田委員、野村委員
湖南市教育委員会 学校教育課長 松浦加代子氏
竜王町立竜王小学校長 清水一範氏

【事務局】谷口教育次長、濱教育総務課参事、岸田教職員課長、松野健康福利室長
西川高校教育課長、村井高校再編室長、辻本幼小中教育課長
加藤生徒指導・いじめ対策支援室長、森特別支援教育課長
上橋人権教育課長、合田生涯学習課長、國松保健体育課長
澤本文化財保護課長、小倉総合教育センター所長、大西図書館長
中田企画調整課長、私学・県立大学振興課山上課長補佐

4 議事録

福永教育長 ただいまから、令和元年度第4回滋賀県総合教育会議を開催いたします。皆様には忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回は次第にございますように、「学校における働き方改革について」をテーマに意見交換を行ってまいりたいと考えております。

本日はゲストスピーカーといたしまして、竜王町立竜王小学校の清水一範校長先生にお越しいただいております。清水先生におかれましては小学校長として働き方改革に取り組む学校現場の取組と課題についてお話をいただく予定でございます。またもうお一方、湖南市教育委員会学校教育課の松浦加代子課長にもお越しいただいております。松浦先生におかれましては、これまで菩提寺小学校校長や市の教育委員会で働き方改革に取り組んでこられた御経験を踏まえて、その取組や課題についてお話をいただく予定でございます。どうぞよろしくお願いたします。

会議に入ります前に、少し御紹介をいたします。こちらの後ろに掲示しております本日の会議名の横断幕につきましては、守山高校書道部の生徒の皆さんに制作をしていただいたものでございます。この字体は、これまで書道部で余

り書いていない篆書体（てんしょたい）に挑戦をして、文字を一つずつ調べながら、何度も練習して作成をされたということでございます。また、こちらにございますパネルにつきましては、守山高校書道部と美術部の生徒の皆さんが力を合わせて作っていただいたものでございます。字は一文字ずつ書道部の皆さんで分担して、絵は美術部の皆さんで、滋賀の未来の明るさと自然の爽やかさをイメージして書かれたそうでございます。この総合教育会議におきましては、こういった生徒の皆さんの作品も紹介しながら会議を開催したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

冒頭長くなりましたが、それではただいまから会議を始めさせていただきます。まず、開会にあたって三日月知事から御挨拶をお願いいたします。

三日月知事 皆さんこんにちは。今日も御臨席をいただきましてありがとうございます。また常日頃、滋賀県の教育文化行政に、それぞれのお立場で、様々な形で御尽力、お力添えをいただいていること、敬意を表し、感謝を申し上げたいと存じます。

今年は、2020年、東京オリンピック・パラリンピックがあり、しかし、年末からゴーンさんの問題や、年始からイランと米国の問題、昨日に至っては、米中の貿易摩擦が一段落をしたのかどうか分かりませんが、激動激変の一年になるであろうと。

しかし、「麒麟が来る」や「スカーレット」を含め、滋賀県にとってはチャンスのある年にもなるし、そうしたい。したがって、今年はいろんなことにチャレンジする、そういう一年にしようということ、職員にも、また県民の皆様方にも申し上げているところでございます。

その一環といたしまして、10代の少女が、国際的に問題提起しています気候変動の問題を含め、CO2、ネットゼロに向けたムーブメントを滋賀県から起こそうということが一つと、いずれ必ず私たちも迎える「死」というものに向き合い、「死」を考えることから、生きていること、「生」というものを、より良く捉えていく、そういう取組をしようじゃないかということと呼びかけているところでございます。ぜひ今年は、教育委員会にも御協力をいただいて、全県の高校生と、将来について、世界について、地球について、高校生と死についてはちょっと語れませんが、大いに考える機会を作ろうということをお考えしておりますので、またお力添えをよろしくお願いいたします。

私も実は今日午前中、書き初めをいたしまして、頼まれていた看板の字と、書展に出さなければならない作品を仕上げたところでございます。彼らは篆書を書いていただいたのですが、僕は今日隷書を書いてきました。こんなに上手く書けなくて、ちょっと見習わないといけないなと思っているのですけ

ど、いずれにいたしましても、それぞれが教育活動のみならず、文化活動などにも勤しんでいけたらいいなと思っています。

また、3学期が始まりました。3学期は、学級経営の面でいうと、どんどんクラスがまとまってきて、学校の先生方も大変やりがいのある時期だという話を聞いたことがございます。しかし同時に、例えば入試があったり、卒業を前にしたり、いろいろと心が揺れ動くそういう時期でもあり、気も遣われるということを知っています。昨今、入試制度がいろいろと変わっておりまして、現場で不安な思いをされている方々も多いのではないかと思います。1日も早く、方向性が見出されるように、まとまるように願いながら、現場の様々なお声をしっかりと行政も汲み取りまた国にも伝えていきたいなと思っています。

今日は一つ、お土産を持ってまいりました。一つずつ取って回していただけますか。実は、今日ここに来るのが少し遅れましたのは、明智光秀は、実は多賀町出身だったのではないかとということで、多賀町の佐目で、佐目十兵衛会というものを作られて、地域の中で勉強や調査をされている方々が、冊子を作られました。他にもお渡ししないといけない方もあるのですが、こういう形で、ドラマなどを一過性のものに終わらせるのではなくて、地域の文化として歴史として、私たち自身が学んで、もう一回世に広めていく、次の世代に伝えていくということも極めて大事なんじゃないかなと思います。「まだ分からないことも多いですが、どんどんいろんなことが分かってきているのです。」と仰っているので、大いにまた調査してください、発表してくださいということを申し上げます。これには、教育委員会の文化財保護課のメンバーも随分、貢献いただいていると聞いておりまして、今後もまたさらにお力添えをよろしく願いいたします。

少し長くなりましたけれども、更にまた滋賀県を盛り上げていけるように、今日は働き方改革が大きな話題になりますので、このテーマもしっかり皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。今日もよろしく願いいたします。

福永教育長 はい、ありがとうございました。それでは早速でございますが、本日の議事に入りたいと思います。本日の会議でございますけれども、まず事務局より、教職員の働き方改革の実現に向けてということで御説明を申し上げ、その後、清水先生から竜王小学校におけます取組について、そして松浦先生から湖南市教育委員会における取組についてお話をいただいて、その後、皆さんとの意見交換と進めさせていただきたいと思いますのでよろしく願いをいたします。それではまず、事務局から教職員の働き方改革の実現に向けての説明をお願いいたします。

教職員課長 教職員課長の岸田でございます。私の方から、学校の働き方改革の現状や取組などにつきまして御説明をさせていただこうと思っております。ただ校種によりまして状況なども異なりますことから、本日は小中学校に対するものに焦点化をいたしまして、御議論をいただきたいと考えておまして、そのような形で資料も御用意をさせていただいております。それでは座らせて説明させていただきます。

最初に、本県のものではございませんけれども、今学校現場でどのような取組がなされているのか、先生の業務負担を軽減する取組の例を映像で確認をいただき、その上で本県での現状や取組などについて、御説明をさせていただこうと考えておりますので、よろしく願いいたします。それでは、映像を御覧ください。

(映像)

教職員課長 ありがとうございます。今ほどの映像の中で、先生の多忙な状況の一端を見ていただきました。また、スクール・サポート・スタッフでありますとか地域の方によるボランティア活動、あるいは部活動指導員の制度などについても見ていただいたところでございます。

それでは、本県における学校の働き方改革の実現に向けての取組などにつきまして、配布をさせていただいております資料1によりまして御説明をさせていただきます。本県では平成30年1月に、学校における働き方改革取組方針を、また同年3月に取組計画を策定いたしまして、資料の一番上にございますけれども、教職員が健康でいきいきと働くことができ、子ども一人ひとりと向き合う時間を確保することで、教育の質を高め子どもたちの夢と生きる力を育むことを目指す学校の姿といたしまして、市町教育委員会とも連携を図りながら、取組を進めているところでございます。

本日は、取組方針の概要版を別資料としてお付けしておりますけれども、この中で二つの数値目標を設定しております、その状況を、今御覧いただいております資料1の上段、左の方に示させていただいているところでございます。またその右には、昨年度に行いました働き方改革に関する意識調査の結果の中から小中学校の教員の回答データを抽出いたしまして、一つは年代別に見ると若い年代ほど長時間労働の割合が高いこと、また職名別では、教頭先生の長時間労働の割合が高いことを、それぞれ超過勤務の主な要因とともに示させていただいているところでございます。

資料下段を御覧いただけますでしょうか。こちらには小中学校に対します主な取組と課題をまとめさせていただいております。先ほども書道の作品を取り

外しされる方の映像が出てまいりましたけれども、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できるように、平成30年度からスクール・サポート・スタッフを配置する市町を支援し、その配置の促進を図っているところでございます。その下の②の部活動指導員も同様に支援を行っているところでございます。これらの取組につきましては、配置効果の検証も行ってございまして、例えばスクール・サポート・スタッフにつきましては、昨年度におきましては、全配置校で平均いたしまして、教員一人当たり月約7時間の超過勤務の縮減が確認されているところでございますし、こうしたことも踏まえまして両事業につきましては今年度、支援を拡充して取り組んでいるところでもございます。また、③にありますような、県教育委員会が実施します調査や会議等につきましては、市町教育委員会から情報提供を受け、見直しを行ったところでもございますし、④の取組、これは純粹に市町の取組ではありませんけれども、統合型校務支援システムを導入し、事務仕事の効率化による負担の軽減を図る取組が進められているところでございます。

その右には大きく四つの観点の取組に分けて課題を整理しております。業務の見直し・効率化の取組では、映像にもありましたけれども、新学習指導要領の対応に伴う教員の業務増、あるいは超過勤務の主な要因となっております授業準備や成績処理等の業務負担を軽減し、あるいは必要な時間を確保すること。またその下の部活動におきましては、部活動指導員の担い手の確保。三つ目の家庭や地域の力を生かす取組においては、これまで学校で担っていた業務を地域と分担して行うことに対する保護者や地域の理解の醸成。四つ目の教職員の勤務時間管理におきましては、勤務時間管理の徹底とその集計作業の負担軽減などの課題があるというふうに考えているところでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

福永教育長 それでは、引き続きまして竜王小学校の清水校長先生から、お話をいただきたいと思っております。清水先生よろしく願いいたします。

清水校長 失礼いたします。竜王町立竜王小学校校長の清水と申します。よろしく願いいたします。平成29年度から、これで3年目となります、学校現場における業務改善加速事業の指定を受け、働き方改革に取り組む学校現場の取組と課題について、説明をさせていただきます。座らせていただきます。

初めに、先ほども映像でもございましたが、教職員の1日のスケジュールについて説明をいたします。本校の勤務時間は、パワーポイントの右下にありますように、8時15分から、16時45分となっています。通常期におきましては、子どもたちは、8時頃に登校するようになっています。その時間に合わ

せて、教職員は大体出勤をしています。1日はほぼ、小学校の場合空き時間もなく、低学年は5時間目まで、高学年、中学年は6時間目まで授業をしています。右下にありますように、休憩時間が設定はされていますけれども、その時間帯に職員室で休んでおられる先生方は余りいません。児童と関わるなど、児童の指導やノートプリントの確認等、いろんな作業に追われています。本校では、完全下校は16時に完了することとなっています。その後、打ち合わせやケース会議、授業の準備や保護者の連絡等に追われます。その時間は、45分程度しかございません。真ん中の方には、繁忙期についても書かせていただきました。学期の初めですと、登校指導や不登校傾向のある児童の受け入れのため、7時半ぐらいに出勤をするということもあります。放課後は、生徒指導事案等が起こると、保護者に説明をしたり、家庭訪問をしたりします。また、学期の初めの準備や、成績関係の処理に追われて、遅い帰宅となります。このように、教職員の仕事は絶対量が多く、厳しい勤務実態があります。一番右の方には、夏季休業中を入れさせていただきました。本校では、夏休みに入りましたら、すぐに6年生の1泊2日の自然体験教室があります。それから、竜王町では、サマースクールというのがございますので、そちらの方に先生方が指導に行くという場合もあります。県内の他の学校では、水泳指導や学習指導を、夏季休業に入った後にされている場合が多いです。その後、その他の業務もあります。午後の欄の方には、研修内容を少し挙げさせていただきました。学力向上や、先ほどあったように新学習指導要領への対応、新しいいろんな生徒指導上の課題、それから本校への課題等について、学校に求められる役割は非常に拡大しているため、この期間を使って研修をしています。ただ、以前は6.5日あった研修も、午前中に、2項目、3項目ぐらいも1時間ぐらいでまとめて研修をするようにして、4日に減らしました。以上、教職員のスケジュールです。それでは、本校の取組についてお話をさせていただきます。

まず本校は、学校規模の割には、他市町に比べて町費の支援等もございますが、かなり多くの数の人事面での業務支援をいただいています。県費負担教職員は27名ですが、それを全部合わせると、約50名で子どもたちに関わっています。また、地域学校本部事業も竜王町の場合は定着しておりますので、先ほどの映像にもありましたが、年間100回に及ぶ支援をいただいております。二日に1回は地域の方が本校に来ていて、その下のの方にありますように、いろんな形で支援をしていただいているところがございます。きめ細かな児童への指導ができています。

次に、本校での取組ですが、私がトップダウンで行うというより、教職員が主体的に取り組むボトムアップの形をとろうと思いました。それは、先生

方が主体的に業務改善に取り組むと考えたからです。また、人事評価に何か活用できないかということも試みました。後ほどお話をさせていただきます。また、夏季休業中の、研修時間を活用して、ワークショップを行いました。働き方改革を進めておられる学校の校長先生に来ていただいて研修会を開いたり、資料を使いながら、先生方が自ら業務改善に取り組むようなワークショップを行ったりしました。そして、仕事を合理化するアイデアを出して、優先順位を決めました。文部科学省の学校業務アドバイザーの妹尾先生の講演会の資料から、学校の課題との関係性が低く、多忙化への影響があるものから簡略をしていきました。また、パワーポイントにありますように、ケース会議では、黒板に書いた内容を文字に残さずに、いちいち打たずに写真に撮って、そのまま配るとか、アンケート集計も集計システムを使うなど、先生方で相談しながら決めていきました。

続きまして、本校は2年前から、スクール・サポート・スタッフが入っています。スクール・サポート・スタッフは、文部科学省が示した、教員の業務効果削減が図られる人的配置です。週4日勤務の1日4時間、週16時間入っていただいています。業務の内容は、印刷やコピーなど、先生方が行っていた業務を代わって行い、教えることに集中してもらいます。導入後は、授業時間や会議中の時間が、有効に活用されるということで、その間に印刷機が稼働され、手間のかかる業務をしていただいていることだけでも大きな業務改善につながったと感じています。教職員からは、効果的に業務ができるようになったことだけでなく、教材研究や授業の準備に時間を使えるようになった。児童の時間に充てる時間が増えたと感じてはいますが、まだまだ十分にその時間がとれているとは言えません。左上にあるように、児童生徒の指導に充てる時間が増えた、教材研究や授業準備に時間を使えるようになったというものに当てはまり、先生方は効果があると挙げているのですが、左下にあるように、その時間が全体的に見て十分にとれているというところまでは至っていないようです。実際、導入後の超過勤務の時間ですが、平成29年7月から、スクール・サポート・スタッフが入っています。青い色で付けたところから、スクール・サポート・スタッフが入りました。また8月から研修も始めました。超過勤務の時間が短くなっているのは、この表を見れば分かると思います。今年については、まだ11月までですので、平均値が少し上がっていますが、12月以降が入れば平均値は下がると思います。速報ですが、12月は32時間ということで、11時間ほど下がっています。スクール・サポート・スタッフの配置の効果は表れているというふうに思います。超過勤務の時間ですけれども、月当たりでいきますと、12時間減。45時間を超える割合は24%減となりました。これも速報ですが、12月は45時間を超えた

職員は27人中6人で、22%でした。年次有給休暇につきましても、2.7日増えました。また、ToDoリストを効果的に活用し、超過勤務時間の少ない教職員の仕事を紹介することで、遅くまで頑張ったり、休まずに働いたりすることが美德のように感じる傾向が残っている意識や風土を変えていこうと思いました。勤務時間終了の時間になれば、後ろめたさを感じないで帰宅できるように、声をかけていきました。人事評価の面談から、時間の使い方が上手な先生を紹介していきました。

最後ですが、課題として勤務の時間は少しずつ短くなっていますが、月40時間はまだあるわけで、児童と向き合うために必要な時間や、教材研究準備の時間が十分にとれているところまでは至っていないということです。そのため、さらに、教職員の超過勤務の時間を減らし、業務改善を進めるため、ハード面の整備が必要であると思っています。さらには、行事の戦略、戦わずして略するという意味ですが、教育の質は落とさずに、教職員の作業内容を2割削減することを、今後目標としていきたいと思っています。取組としてまだ道半ばでありますので、引き続き働き方改革について校内研修会等を行い、限られた時間の中で最大限効果を上げるためにはどうすればよいか、働き方改革の視点をさらに醸成させていきたいと思っています。また、学校では、数多くの校務分掌があります。見直しを図り、スリム化をしていきたいです。

さらに、本校は地域とともに歩む学校として、平成26年度から、学校運営協議会、コミュニティ・スクールとしてスタートしております。昨年度11月に行われた創立50周年記念事業につきましても、コミュニティ・スクールが主となって事業を進められました。そちらにクリアファイルを用意させていただきましたが、本当に地域の手づくり感が満載の50周年記念事業だったというふうに思っています。

最後に要望といたしましては、学校も努力をしておりますので、今後も、ハード面、人や物について支えをしていただきたいと思います。スクール・サポート・スタッフをはじめ、継続して人員の配置をお願いしたいです。また物としては、教職員から、校務支援ソフトや留守番電話の導入の実現が聞かれるようになりました。先ほども申しましたが、生涯学習課のコミュニティ・スクールや地域学校本部事業も、もっと予算をつけて進めてほしいと思います。また、幼小中教育課、教職員課など、指示伝達、周知徹底、調査報告、出席依頼等の文書は減った感もあります。しかし、防災、安全等の大切さは十分承知しているところではございますが、保健体育課などは、余り変わっていないように感じています。また、外部団体の作品依頼やチラシ配布、それからポスター掲示は数多くあり、夏季休業前は、私たちも協力し合いながら仕分けをするなどしても、処理し切れる量ではございません。担当されている

団体や課にとっては少なくとも、学校に集まるとかなりの量になります。また、転送メール配信は逆に増えておりますので、本当に学校に必要な情報をさらに精選していただきたいと思います。

最後に、どの学校でも、教員が一生懸命、教育活動に取り組み、子ども一人ひとりと向き合い、子どもたちの力を伸ばそうと日々努力をしています。この思いを受け取っていただいて、教職員が健康でいきいきと働けるように、教育行政も積極的に進めていただけるとありがたいです。これで、竜王小学校の取組の説明を終わりたいと思います。少し時間が延びたことをお許してください。お聞きいただきありがとうございます。

福永教育長 清水先生ありがとうございました。それでは、引き続きまして、松浦先生から、湖南省教育委員会の取組についてお話をいただきたいと思います。

松浦課長 失礼します。湖南省の松浦です。湖南省の教職員働き方改革についてということで、市教委の取組をお伝えさせていただきたいと思います。今、清水校長先生がおっしゃった要望については、打ち合わせも何もしていないのに、全く同じことを後でお話しようと思っていたので驚きました。湖南省教委も同じことを思っております。例えば、市の教育委員会に、こういった取組をしますからってということで配布物が来ると、今までですとドーンと来て、学校に分けなさいというようなことで来ていたのですけれども、去年今年と、全てクラス数で、これは人数で分けて持ってきてくださいということで、学校の方に分けております。これだけでも随分学校には、市教委も業務改善に前向きなのだなということがメッセージとして受け止めてもらえているかなと思います。県教委から配っていただくものについても、そんなふうにしていただけると、「教育しが」とか、分けといていただけると非常にありがたいなと思います。そういったことが学校現場で目に触れると、県の教育委員会も業務改善についてやはり真剣に取り組んでくださっているのだなということが伝わってきますので、無理な要望かもしれませんが、御一考いただけたらと思います。

湖南省ですけれども、改革というところで、例えば、業務改善ということにつきましては、6年ほど前から取組をしております。ですので、先ほどからも出ていますスクール・サポート・スタッフ、以前は学習支援員と呼んでおりましたが、教員免許を持っていませんので、その学校の中で勉強と一緒にフォローしたり、教室の中で、一緒にお助けしたりという学習に限っていたのですけれども、6年前からはその名称を学校支援員と変えまして、スクール・サポート・スタッフと一緒に、印刷だとかそれから配布物分けるとか、掃除を手伝っていただくとか、そういったことにも入っていただいております。湖南省では学校

の中にボランティアさんが随分入ってくださっています。地域とともにどんな学校にしたいのかっていうところで、湖南省の13校のうち、10校がコミュニティ・スクールです。あとの3校も来年からコミュニティ・スクールになる準備をしていきます。そういったところで、なぜ今業務改善をしなければいけないのかっていうと、ボランティアさんの高齢化です。町のスーパーボランティアさんが、今、大体70代後半から80歳ぐらいになられつつあります。ですので、地域の方が学校に力を貸してくださるようになった勢いのあったときから、10年、15年が経っていますので、本当にボランティアさんが、もう押しなべてだんだん高齢化されています。ですから、今こそその学校の業務改善っていうところに取り組んでいかないと、危機的な状況があるということで、これが大体6年ぐらい前かなと思っています。湖南省教育委が目指していること、これは先ほども清水校長先生がおっしゃいました。こちらのリーフレットですけども、とにかく改革は子どもの姿を思い浮かべながらということで、先生たちの本来業務を減らすということではなく、ここにありますが、指導それから評価は、これは教員の主たる業務であると。例えば、連絡簿を学校は出しますけれども、業務改善のために連絡簿に所見を書くのをどんどん減らしていこうとか、いやそれは違うと。保護者さんに連絡を、学期に1回、あるいは1年に2回とかするのは、これは本来業務なのだと。本来業務を削減することが業務改善ではないということで、コンセプトとしては、ワークを減らしてライフを充実させようということをしています。そして、成果を検証するために、超過勤務時間の把握っていうのは、これは特に数字として簡単ですけども、いやいや我々が狙っているのはもちろん超過勤務の削減も大事ですけども、教育の質の向上というところで、そこを成果指標としてどのように表せばいいのかっていうことを考えております。そこで、校長会で協議をし、今年度、各学校で成果指標を定めていこうじゃないかと。ですから、成果指標は各学校によって異なります。例えば、教職員の交通事故が減ったとか、これは、やはり心のゆとりといいますか、表れてくるのではないかなと思います。そしてまた、不登校の数が増加しないと。これはなぜ、減少っていうことを書かないかといいますと、決してその不登校が悪いということではないと。自分の学習スタイルの中で不登校っていう子もいますので、そこが増加しないという書き方をしようじゃないかとか、あるいは問題行動数が減少しているという中で、1点いじめについては、重大事態はゼロに近い数にしたいけれども、早期発見については減ることのない指標としてはどうかという、そういった協議もしております。この成果指標を各学校で表しましょうというところが、今年度の命題です。

またもう一つ、例えば、業務改善、働き方改革を進めていく中で、湖南省で教職員をしたいという人が増えてくれることを望んでいますし、実際今、人事

の始まる頃になってきましたけれども、ありがたいことに湖南省を希望と書いてくれる湖南省内の小中学校の先生方が非常に多いので、喜んでおります。もちろん、湖南省に囲い込むつもりはないのですけれども、やはり自分が働いてきた湖南省を書いているということは、働きやすい環境が整ってきたのではないかなと思っています。

そして、働き方改革の校務支援システムですけれども、これは成績処理だとか、出席簿だとかそういったことが一括できるシステムです。またミライムといいますのは、出退勤の時刻の管理だとか、それからメッセージ機能だとかそういったことがございます。これは5年ぐらい前に、この校務支援システムのメーカーが先駆けて湖南省に売り込みにこられたときに、共同研究ということで導入をしました。ですので、かなり学校の使い勝手が良い、そういうシステムにしてくださっています。それから、学校支援員の配置による業務軽減ということで先ほど清水校長先生も御報告をされました。休み時間と、教員の目が行き届かない時間帯を中心に、巡回だとか、印刷業務、テストの採点、文書の配布、備品整理、そういったものに非常に活躍をしてくださっています。県からのスクール・サポート・スタッフが2名で、やはり湖南省のここでも独自の予算として62名ということで計上してくださっています。このあたりでやはり、小学校中学校にかなりの人を配置してくださっていることはありがたいことだなあとと思っています。

そして、次に、研修です。市教委の主催をします専門家によるワーク・ライフ・バランスの研修ということですが、だんだんと、研修の中身が変わってきました。平成29年、おととしは、まず教員対象で4回、そして校長、教頭、事務職員、それから保護者・地域ということで、各職階別、あるいは立場別で研修をしました。特に有効であったのは、教員対象の1回目については、その研修が有効でありました。先生方の意識改革ということで、非常に大きな役割を果たしてもらえた研修であったと思っています。この写真に載っている、ちょっとどんなことが改革できますかということで、書いたものを挙げているのが、私の前任校の菩提寺小学校の先生たちがたまたま写っていたのですが、この研修を受けて学校へ帰ってきましたときに、「校長先生これもできるわ。あれもできるわ。あれもしよう。」ということで、いろんなアイデアが出てきました。これはやはり、今のやっていることを、こういう方法で削減してもいいのではないですか。「それ、当たり前のことに思っていますけど、当たり前にやらんとあかんことですか。」ということで投げかけをしてもらったことは、非常にありがたかったなあとと思っています。そして、昨年度につきましては、校長対象に、やはり教員の意識改革が進んできましたら次は、校長教頭のマネジメントであります。ですので、昨年は校長・教頭、それから保護者・地域を対象に、

研修会を行っています。その研修会の案内ですけれども、このような形で、今年、保護者、それから地域の方々、そして教職員。一緒になって研修会を3回行いました。1回目、2回目、9月に行った2回については、まず学校の状況を地域の方に知っていただいたり、それから、学校の中でまだまだ進められる業務改善ってどんなことかっていうことで、そこにグループワークで、地域の方、保護者の方にも入っていただいたりしました。そして、感想としては先生たちの働き方について、本当に知らなかったっておっしゃいました。何か私たちにできることないですかとか。あるPTAの方は、今日PTAの会議があるので、こういう研修を受けてきたと。私たちも、何か先生、学校のために、結局子どものためになるから、何かできることはないだろうかっていうことで、相談をしましょうっていうようなそんな声を上げていただきました。ですので、3年目については、学校だけじゃなくて、地域の方も一緒に研修会が行えるようになりました。

次の資料は、教育委員会と事務部会、事務の事務職員さんは、様々な業務の効率化と簡素化ということで、アイデアを持ってくださっています。ですので、この部会の中に市教委が入って、こういったことについては改善していきましようというアイデアがたくさん出てきました。例えば、調査報告などの様式の定型化だとか、卒業証書授与録の電子化だとか、公金事務処理の軽減だとか、市のバスの申請の簡略化だとか、日頃から事務職員さんが考えてくださっていることが具体として表れるようになりました。例えば、市教委も、それから県教委もそうですけれども、どんな業務改善が現場では考えられますかっていうことを聞きます。ですが、聞きっぱなしっていうことが、実際、湖南省教委でこれまではありました。校長あるいは教頭、そしてまた、先生方からこういうことは、改善できるのではないかっていうような声が、具体例が挙がってくるのですけれども、それに対して、まず教育委員会が1個ずつ対応策を考えました。もちろん、対策が考えられない、あるいはこれはもう変えられないという事項もあります。そういったときには、なぜ変えられないのかっていう理由を明確にして、対策とそれから理由を校長会で周知をしました。校長は現場に、学校にそれを持ち帰りまして、先生方の意見を集約して、そしてまた、教育委員会がもう一度対策を考えると。そういったことについては、定例の教育委員会にも諮りまして、審議をしていただき、もう一度校長会で提示をし、学校現場で実施するというので、これも先ほど清水校長先生のお話にありましたが、教育委員会がこんなふうにやりますよって、ポンとトップダウンではなくって、現場の声を吸い上げてそこから決めるのは教育長、そしてまた校長であったりしますけれども、意見を吸い上げるということは、結局は業務改善を進める学校づくりは、風通しのいい学校じゃないとうまくいかないっていうことがよく

わかってきたと思います。そして、先生たちのアンケートの声で、最も働き方改革につながった取組として、学校における電話対応についてです。留守番電話メッセージ機能です。留守番電話の録音ができるのではなく、「こちらは、湖南省教育委員会です」と言って、留守番のメッセージ対応をしています。昨年度導入したときに、これも導入のときには、非常に校長会でいろんな意見が出たのですが、実際導入したところ、保護者の方からの苦情はなく、もちろん学校もこれは良いなど。すごく効果がありました。昨年度までは7時でメッセージ機能に替わるということだったのですけれども、これも校長会で協議をしまして、6時半からに繰り上げをしました。そのときの改めてのお願い文書につきましては、もちろん教育長それから校長、そしてPTAの連絡協議会の会長とPTA会長の連名で。ですから、教育委員会だけが考えてやっているのではないですと、保護者の方も、御賛同いただいて御理解いただいて、これを導入しているという取組をしております。そして、市教委としましては、業務改善推進に係る学校訪問ということで、この夏には、私と指導主事が分担をしまして、昨年度、菩提寺小学校と日枝中学校で事業に取り組んできましたので、その成果をお伝えに行きました。結局どんなことかと簡単に言いますと、菩提寺小学校では先ほど言ったように、先生方から案を上げていただいてそれを実現していったというやり方です。市教委から学校訪問することに大きな意味があるというのか、市教委も本気で取り組んでいるよってというメッセージを伝えに行きました。帰った途端、校長の方に、「校長先生、こんなこともしましょう、あんなこともしましょう。」という、やはり学校の風土というのか、そういったところも後から聞こえてきました。中学校については、日枝中学校で最も大きな行事であったウォークラリーをやめるという改革をされました。これも長年に渡って懸案事項になっていたのですけれども、地域の方の御理解も得て、本当に長い時間かけてそういうことをしたと。ただ、大きな行事をなくすだけではなく、地域の活動に生徒を出しますよということで、何かをやめる。そしてまた、その代わりに、何かを学校でするのではなくて、地域で子どもたちが活躍できる、そういう取組をしますよということをしております。湖南省教委の取組としましては、以上とさせていただきます。

福永教育長 松浦先生どうもありがとうございました。それでは一通りの説明をお聞きいただきました。これからは、皆さんから、働き方改革に関する御意見をいただければと思っております。また、ただいま御説明いただいたことに対する御質問でも結構でございますので、まずは皆様から御発言をいただければと思えます。よろしく願いいたします。藤田委員。

藤田委員 どうもありがとうございました。今日は学校における働き方改革ということで、竜王町と湖南市の先生方から、今取り組んでいる実情を本当につぶさに紹介いただきありがたく思います。やはりこういう取組をやっていることが、実際前進しているということであると思うのですね。ただ本来の働き方改革というのは、学校だけじゃない全国、企業も団体も学校も、みんな一生懸命、みんな働き方改革という大きな中にありまして。これは、本来のそもそもの狙いというか、なぜそんなことをしないといけないのだろうなということ、時々考えることがあるのですが、それはやはり時代の価値というものを、働き方改革という時間という価値概念を、新しい時代に向かった価値概念の時間の価値を変えていくということによって、もたらされる効果というものを期待されていると思うのですね。そのためには、学校という教育での働き方改革、産業界なんかと違って難しいと思うのは、立派な人材を育てていくという本来の大きな目標がありますので、そういう意味では、時代の変革の中で力強く骨太で生き延びていく力を養っていくためには、今までのやり方どおりの勤務とか、やり方どおりの時間の使い方、本当に働き方改革から生まれてくる価値ができるのだろうかということがあるのかなというのが私の考えです。そうすると、やはりそこにはどうしても、現在の時間の使い方、今学校でこういう時間を使っていますと。それに対してこういうふうに取り組んでと。スクール・サポート・スタッフとか、いろんな諸条件と組み合わせていただいて、非常に良いなと思っています。

それと意識改革。先ほど話がありましたが、非常に大事なことであります。意識が改革されないのに、構造を変えていこうということは非常に難しいと思うのですね。意識が変わると今までの構造に対して、もっとうしていったらどうだろう、ああしていったらどうだろうと、そういうことに多感に取り組んでいただいているような気がいたしますので、うれしく思います。そのときに、やはり見直していくと、やり直しはできませんけれど、今まで本当にこれでよかったかどうかということを見直していくと、そこに生まれてくる効果っていうか価値というものが、あるのだろうと思うのですが、そこはやはり一つは先ほどスクール・サポート・スタッフの使い方とか、時間とスクール・サポート・スタッフの一連の効果とか、子どもたちと先生方が、時間軸で考えたら朝8時から16時45分までとか、そういう中で、いかに見直していくことによってという仕組み。目標・目的は立派な子どもをつくるということなのですが、手段とかやり方という手法はいろんな組み方があるので、そこでやはり、さらにICTをもっと使ったほうが効果的だと思います。というのは、先ほどの情報の配布ということがありましたけど、要するに配布資料の話ですね。昔は新聞を配ってもらって、ずっとこうバッチごとに分けているみたいなのところもあり

ますけど、考えてみたらそれも悪いことではありませんが、インディヴィジュアルっていか個人個人に一遍にどんと発信してしまえば、本当に目的の人に瞬時に届くわけですから、そういうことをすることによって仕組みを変えれば、そういう時間が浮くとかですね、随所に時間と価値の考え方を工夫していくというこの取組のスタートとして、一生懸命なさっているなど感じます。そうは言っても、予算の問題もありますから、多分いろんな意味で、仕組みを変えるということは、やはりそういう時代に合った仕組みにしていくということを通じて、立派な未来の子どもを作っていくということについて先生方がどういうふうに働いていくかということの組み合わせで、風通しよくやっていただいているということで、ありがたく思います。

福永教育長 ありがとうございます。そのほか、では野村委員どうぞ。

野村委員 失礼いたします。ありがとうございます。今ずっとお聞きしていながら、やはりスクール・サポート・スタッフの方がたくさん入っておられるというところで、その方は誰でもいいというわけではないと思うのですが、どのようにして探されているかをお尋ねしたいのですが。学校の方から、地域の方に働きかけをされて、この方はどうかとか、何かそういうふうな信頼関係ではないのですが、そういったところもすごく必要になってくるかなと思うのですが。

清水校長 本校のスクール・サポート・スタッフと、竜王西小のスクール・サポート・スタッフは、校区はちょっとやはり子どもさんの関係があるので、お互いのPTAとかで、本部役員をされた中で、すごく学校に理解持っていただいている、それから地域でもいろいろ活動されている方を、竜王小学校の人に西小学校に行ってもらって、西小学校の人に竜王小学校に来てもらうような形をお願いをして、今両方で一人ずつとしているところです。それから、他のボランティアさんにつきましては、先ほど言いました地域学校協働本部事業がございまして、公民館にあるのですが、そこが主になってボランティアさんを募集して、取りまとめをして、学校からこういう支援依頼を送りまして、その支援に従って、協力していただく方を配置していただいているというような形です。ですので、そちらのボランティアについてはもう募集をされているということです。

松浦課長 湖南省ですと、先ほど書いていました62名の学校支援員がおりますけれども、来年度からは、会計年度任用職員がするので、公募となります。ですので、今までですと、校長から「お願いします、来てくれませんか。」っていうことも多

かったのですけれども、今まで学校支援員して下さった方がもちろん応募してはくださいますけれども、公平性を保つということで、公募ということで、今はハローワークに登録をされています。

野村委員 ありがとうございます。やはりそういった中で、市町の教育委員会から委嘱されているスポーツ推進員の方が、各市町にいらっしゃると思うのですけれども、そういった方のお力とか協力を願ったりとか、例えば学校行事の中のPTA活動の中の一つを、そのスポーツ推進員の方に手伝っていただくとか、何かそういったことも一つの方法じゃないかなあとかというふうにも思ったりもします。私は総合型のスポーツクラブをしているのですが、その中に取り込んだりしながら、また、出前講座で学校の方に寄せていただいたりとかいうこともあるので、そういったところの活用もしていただけるとよいのでは。そのスポーツの面では、何かお手伝いできるのかなっていうことを感じさせていたっていました。学校以外が担うべきというか、お手伝いできるっていうことがすごくたくさんあると思いますので、現在ももちろん進めておられるのですけれども、もっと地域でもお手伝いしていけるといいなっていうことを考えながら、聞かせていただきましてありがとうございます。

福永教育長 ありがとうございます。では、土井委員よろしくお願ひします。

土井委員 今日はどうもありがとうございました。私からは、二つ質問をさせていただきます。

一つ目は、ボランティアをお願いしたり、スクール・サポート・スタッフをお願いしたりしているということですが、ボランティアに協力していただける母集団が安定してあるとお考えか、もしくはなかなか難しい状況になってきていて、あるいは今後なくなっていくかもしれないとお考えでしょうか。

それから二つ目は、働き方改革をお願いしている立場の教育委員から、そう言われましてもということかもしれないのですが、清水先生が教職員の1日のスケジュールを書かれていて、朝8時前後に先生方が登校されて、一応勤務時間が8時15分から16時45分という形になり、帰りの会が終わるのが、大体15時50分ぐらいになっていますよね。ここで子どもに関わる業務が一斉に終わったとしても、退勤時間まであと1時間しかないという状態になっておられる。それまでの間、とりわけ小学校の場合は、ずっと先生方は教室におられると思うのです。そうすると、この残り1時間で授業準備ができますかって言われたら、多分実際は無理な話であって、もう恒常的に超過勤務が発生することになる。授業準備をする以上は、超過勤務が発生するというを想定せ

ざるを得ない状態になっていると思うのですね。そこで、理想形でもいいのですけれど、実際にこういうふうに普通に職務を行った場合、中学校や高校など学校種によって違うので、一概には言えないのですけれども、小学校を想定していただいたときに、先生方の御経験からすると、普通に期待されている程度の授業準備をすれば、1日にどれぐらいの勤務はせざるを得ないのか、どの程度のイメージをお持ちかをちょっとお聞かせいただければと思います。

清水校長 一つ目のボランティアの件ですが、竜王町の場合は、すごく安定したボランティアの取りまとめをする方が公民館におられまして、そのボランティアのコーディネーターの方が中心となって、地域人材をとということで安定はしています。ただ先ほど湖南省からもありましたが、やはりその方の年齢がちょっと上がってきているというのが現実です。他の地域ではやはりそれを学校が担っているところがあると思いますので、学校独自で地域をとすると、かなり負担もあります。コーディネートすることに対しての時間、負担がかかるっていう場合もありますし、それから全て無償でというところでもいけない部分もありますので、地域によって差はあると思いますけど、有償の金額というのも発生するでしょうし、そういう面では厳しい地域もあるのではないかなと。人材の発掘に苦労しているところもあるというふうに思います。

それから、二つ目の普通に授業をした場合ですが、例えば一つの授業に対して、10分準備時間を取るとしても、最低1時間はかかりますし、ただ、10分で効率よくできるかって言ったら、単元の最初に、この学習は10時間で学習するっていうのがあったら、最初には時間がかかって、そこで先ほどもToDoリストという話をしましたけれども、計画的にきちっと何時間目はこういうことをするというのを最初に決めてしまって計画を立ててしまえば、あとはその流れに従ってしていくと。すると何が発生するかと言ったら、その教科が終わった後に、まとめや振り返りっていうのをしていますので、それを見るのに各教科やはり30人子どもいたら、それを絶対目を通さないといけないので、それにも時間が要するというで。そうすると効率よくやっても10分ぐらいはかかりますので、1授業に20分とすると、やはり2時間近くかかってしまうのかなと。そこに今、加配教員などに入っていて、小学校でも中学校のように空き時間が少しずつ増えているのは事実ですので、6時間全てを授業するのではなく、教科によってはその時間は加配教員がしているという場合がありますので、その時間は1時間空きますので、少しその時間に計画等を立てることができるというふうに考えています。

松浦課長 清水先生と同じようなことですが、湖南省もそれぞれボランティア、

例えば菩提寺小学校ですと、「苦っ子を育てる会」という会がありまして、そこにボランティアさんが登録してくださっていて、各学校がボランティアを募ったときに集まってくださると。例えば、全校遠足では、菩提寺小学校から希望ヶ丘まで、全員が歩くのですけども、各班の前と後に、18班36人のボランティアさんが必要という行事があったりするのですけど。そういったものについては、コーディネーターさんが募集をしてくださって、そこに配置をしてくださるとか、あるいは、先ほど野村委員がおっしゃったスポーツ推進委員の方が、スキー教室のボランティアに来てくださったりとか、あるいは総合型スポーツクラブで、外国籍の子が湖南市の場合大変多いですので、スポーツの交流というのに来てくださったりとか。そういうボランティアさんについては、本当にありがたいことにレイカディア大学を卒業された方たちの、その技を發揮するのにということで、希望する学校の剪定を2カ月に1回行っていただいています。これも学校はすごく助かるのです。子どもたちにとっても、来てくださることを喜んだりして非常にありがたいなど。生涯学習で学んだことを發揮できる学校の間ということがあります。

それから1時間、それこそ放課後における時間の捻出というところも大事で、最近、学校の時程を考え出している学校もあります。例えば6時間目を終わるのを、20分繰り上げるとすることするのも、やはりPTAに諮り、コミュニティ・スクールの理事会で諮り、そしてまた学童保育の関係もあつたりします。そして、地域の方が立番してくださいますのでそこにも諮り、保護者の勤務の都合もありますので、その20分間を、授業を考える時間に増やしたいと思えますので、御協力をお願いしたいという形で、アナウンスを1か月前にはし、4月から取組をさせていただきました。そういったことに対する苦情というのは本当はないので、ありがたいなと思っています。

福永教育長 ありがとうございます。土井委員、何かございますか。

土井委員 どうもありがとうございます。お話を伺って非常に御尽力いただいていると思います。その上で、私が感じていることが3点あります。一つ目は、これは我々社会の側の問題だと思うのですけれども、学校にお願いするとコストがかからないと思っている節があるのですね。でも本当は、学校の先生方をお願いをするということは、学校の先生方の手間をとるわけで、当然その先生方に給与を支払い、いろんな予算をかけているわけですから、実は学校の先生方の時間を1時間とるっていうのは、こんなにお金をかけるということだっていうのを考えた上で、本当はお願いしないといけない。ところが、学校はただでいろんなことを無尽蔵にやってくれるところであると、どうも社会の側が思ってい

て、だから何かあれば学校にお願いすればいいとしてきた。しかし、現実はそのようではなくて、非常に大変な思いをさせてしまっている。よく言われることですけれども、本当に教育の専門家である先生方にお願いしなければならないことは何なのか。それ以外の人に、お願いすべきことは何なのかを精選しないと、やはり働き方改革っていうのはうまくいかないだろうと思います。

それから二つ目は、清水先生に工夫の仕方をおっしゃっていただきましたけれども、それでもやはり元々無理があるのではないかと思います。授業について20分で準備というのは、多分、先生方の年齢によって時間差が出てくるところで、清水先生ぐらいのベテランであればそれがうまく回るけれども、滋賀県で増えてきている20代の先生方が今までの準備もないのにそれだけ効率よくできるかっていうと、やはり難しい。そうすると、通常のやり方で無駄がないような形でもお願いしても、超過勤務が出るという状況になってしまっているところを、やはり社会として考えないといけない話だと思うのです。今、国が定めている教員定数についても、ある意味、最初から無理をお願いすることを前提に決めている定数じゃないのかっていう点を含めて、本当は現場にしっかり言っていただく必要があると思うのです。働き方改革を推進している文部科学省の言っていることは矛盾していて、あなたたちが働かせ過ぎているじゃないのかという部分が多分にあるのです。とはいえ、しっかり改革をしていただかない段階で何を言っても、それは無駄があるからだろうと言われるわけですから、努力していただいた上で、できない部分はできないとはっきり言っていただいたほうがよいのではないかと思います。それを受けてどういう予算を組むのかとか、あるいは社会全体として何を学校にお願いするのかを考えないと、それはやはり無責任だと思います。

三つ目は、ボランティアをお願いするのは私も大事だと思うのですが、社会の全体のあり方が変わってきているのも現実です。例えば働き方改革を学校にはお願いしていますが、同時に男女共同参画を強く進めているのですよね。20年前、30年前であれば、家にお母さんやおばあさんがおられてという状態であったかもしれませんが、それが今は社会に出ていかれるという話になります。先ほど、学童の時間のことをおっしゃっていましたが、以前であれば、子どもたちが帰ったらお母さんが面倒見ていたけれども、いまは働いておられるので、学童をお願いをするという社会になってきているわけです。そのような状況の中で、ボランティアの母集団として、どういう方々を恒常的に確保していくのかは、やはり全体の施策との関係で考えないといけません。もし、できるだけ皆さんが働いて、収入を得るという形で社会に参画していくことになるのであれば、ここだけボランティアに頼むのは実はおかしい話で、家庭がみんな働いて収入を稼いでいるのだったら、そこから幾らかスクール・

サポート・スタッフにもお金を払っていくという方向にしていかないと、多分サステイナブルなシステムにはならないと思います。

福永教育長 はい、ありがとうございました。

三日月知事 竜王小学校とか、湖南省内の小学校の教職員の先生方は何時に出てきて、何時に帰られたかという、出退勤務の記録というのは、何か確実なもので把握や管理をされているのですか。

清水校長 竜王町の場合は、先ほど要望もありました人員はたくさんつけていただいているのですけれども、そのシステムについては導入されていないので、パソコンでエクセルを立ち上げて、そこに自己申告で、何時に来ました、何時に帰りましたということを入力して。持ち帰り時間も把握しておりますので、そこに持ち帰って仕事をした時間も打ってくださいと。

三日月知事 採点とかを家に帰ってやったりとか。

清水校長 それで1カ月間、こちらから出してくださいということをお願いして、みんなも協力して月々出していただいています。

三日月知事 それは竜王小だけですか。

清水校長 竜王町全体です。令和3年までには、校務支援ソフトも導入される予定になっているので、それまでにはその部分も解消されると思います。

三日月知事 校務支援ソフトが入ると、そこはできるのですか。

清水校長 一緒にできるというふうに聞いています。

松浦課長 湖南省の小中学校は、校務支援システムがあって、パソコン立ち上げたときが出勤となります。

三日月知事 学校の先生方って、来られたときにまずパソコンを触るのですか。僕らの感覚では、学校の先生はいろんな仕事があるでしょうけど、学校に来られたら、まずは子どもたちが来ると言って、校門に立って。そんなところに支援システムなんてありませんし。でもそうこうしているうちに、チャイムが鳴って、も

しくは外で子どもたちが遊んでいるところに、「おーい」と言って、教室に入って、そこに先生のパソコンがあるかといったらないし。2時間目か3時間目によく職員室で座ったときに、「そういえば、今日は立ち上げてなかったな」という感じではないですか。

松浦課長 ですから、教育委員会では、タイムカードで出勤したらカードをピッとしていますけれども。学校は校務支援システムを立ち上げたときですから、それぐらいの正確さはないというか。自分が出勤した時刻にきちっと直すことができますのです。

三日月知事 先ほどおっしゃっていた意識改革。両先生方もおっしゃっていましたが、とても大事だなと僕も同感です。しかも、ボトムアップ型というか、研修も先に現場の先生がやっていただいて、次にマネジメント層にもやってもらって、グルグル回して、そして現場でいろんな多忙化のためにどんな影響があるだろうとか、子どもたちの教育にどんな影響があるだろうとか、マトリックスで整理してみて、そこから改善していくぞという。こういう研修というのは竜王町でもされているのですか。

清水校長 夏季休業中に、町での全員研修会がありまして、先ほどの横浜市立永田台小学校の資料で、1日のスケジュール、24時間を見直そうとありましたが、実践されている校長先生を町で呼んで来ていただいたので、それからスタートするというか、それが2年前の夏の研修会です。

三日月知事 24時間というのは、ワーク・ライフ・バランスの考え方を見直すという意味ですか。

清水校長 まずそこから見直していきましょうということです。そこから学校の行事や、いろんな取組の中で、精選できるのは何かっていうことを、ワークショップでみんなと一緒に考えていって。それを集約して、いきなり全部はできないので、何からできるか考えていこうということで、2学期から少しずつ。

三日月知事 なるほど。これは減らせるな、これは見直せるなということですね。松浦先生もそういうことに言及されていましたが、こういった研修は、繰り返し、繰り返し、ぐるぐる回していくとよいのですね。

松浦課長 繰り返しです。やはり1年目は超過勤務の時間はがくんと減っているのです。

しかし2年目は横ばい。今年は、ちょっと増えているのです。やはり、知識としてはあるのだけど、意識が薄れるというか。

三日月知事 あと留守番電話の話ですが、両先生から、導入があった方がいいという話がありました。県内ではどれくらい導入されているのですか。学校には、大抵あるものですか。確かに、その都度先生が電話を取っていたら、長引くものもあるし、手を取られるでしょう。湖南省は全部の小中学校にあるのですか。

松浦課長 全部の小中学校にあります。

三日月知事 夕方は何時になったら留守電に切り替わるのですか。

松浦課長 6時半です。

三日月知事 朝は何時までですか。

松浦課長 7時半です。手動ですので、例えばトラブルがあった場合などは、退勤時間に合わせて留守番電話にすることはできます。

三日月知事 そういうことになっていますよということを、事前に住民の皆さんにお伝えしておくということですね。竜王町はどうですか。

清水校長 竜王町は入っていないです。

三日月知事 そうすると、二つの小学校も、中学校も、かかってくる電話は、そのときにいる先生が対応するということですね。

清水校長 電話は取りますが、比較的少ないです。竜王町自体は、留守電を入れていなくても、世の中がそういうような風潮なので、「早めに電話しないとだめですね。」とか、そういう感じで言うくださる保護者さんがいますので。

三日月知事 そうすると、子どもが休むときの電話とかってというのは、どうやって対応されているのですか。

松浦課長 欠席連絡は、基本は、連絡帳で、一緒に登校する地域の子どもが届けている。欠席連絡も7時半以降です。

三日月知事 そういうことを周知徹底されているんですね。

教職員課長 留守番電話については、9市町が既に導入済となっています。

三日月知事 9の市町が留守番電話を導入しており、まだ10の市町ではやられていない。

教職員課長 未導入の市町は、実施に向けて検討中というのがこの7月1日現在の状況でございます。

福永教育長 ありがとうございます。今皆さんから出た意見の一つは、有償または無償でというお話も含めまして、ボランティアなどの活用をしていくこと。それから、有償になりますけど、スクール・サポート・スタッフとか、中学校の部活指導員の活用をすること。そしてもう一つが、教職員の意識改革という意見が出ていたと思います。そして藤田委員から、もう少しICTを活用していったという話もあったと思います。

それぞれのテーマで皆さん方に、ここをこう工夫したらもっとうまくいくのではないかといった、もう少し具体的な御意見がありましたら、いただければありがたいのですが。ただボランティアも先ほど、竜王町さんがおっしゃっていたように、例えば公民館とかがコーディネートをうまくやってくれれば、先生方の負担っていうのは少ないんですけど、先生方あるいは校長先生や教頭先生が、いろんなことを頼みに行ったりいろんなことをしたりすると、それはまたなかなか大変な業務量になるのかなというふうに思っております。

この資料にもありますが、教頭先生の業務量が非常に多いよねっていう話がよく出てきますけど、そのあたり、例えば、皆さん校長先生をしておられるので、教頭先生のこういう業務量をもう少し減らしてあげたらいいのかなっていう何か工夫というのがあれば。それを見ておられる先生方は、何か教頭になると、大変だよねってやはり思われるから、人材確保という意味でも何かあるかと思いますがいかがですか。

松浦課長 教頭が何に追われているかという、特に報告文書です。

福永教育長 それにつきまして、何かございますか。

三日月知事 例えば、何の報告文書ですか。

松浦課長 支援員とか部活動指導員とか配置とかしてもらい助かっているのですが、それらについてはやはり計画それから報告といった業務があるわけですね。

三日月知事 何人をどこにとかですか。

松浦課長 そうです。だから、教頭は、配置していただけることは非常にありがたいことなので、文句も言わずにやってはいますが、やはりいろんな報告が積もりに積もってということです。

三日月知事 部活動支援員もそうであれば、スクール・サポート・スタッフもそうですね。

松浦課長 全部ですね。それはそうでなかったら、お金だけもらえるというわけにはいきませんので、大事なことですけれども。

清水校長 どうしてもいろんな窓口が教頭になっていますので、どうしても業務が集中してしまう。外部との連絡、それから教育委員会の連絡も、原則は管理職がするというので、教諭の方が、窓口になって教育委員会と話をすることはないので。その辺りは、校長が教頭と分けてしてはいますが、基本的には教頭一人になってしまっているの、そこで報告や連絡等の先ほどのものもそうですし、いろんな外部団体から連絡が来た場合も、一旦は教頭でまず受理をして、後は事務さんとかに回しますけれど。例えば、1日そういうことに10分かかったとしても、年間で考えると1週間分ぐらいの業務量になってしまうので。そうすると、ちりも積もれば山となるので、年間通してみるとそれだけの窓口業務が取られていってしまう。

教頭がすべきことと、例えば、学校の中で事務職員さんがすべきこと、スクール・サポート・スタッフがすべきこと、ほかの教務主任とか教務部っていうのが、学校規模に応じて担任をしない先生も、1人2人いますので、そういうところを上手に分けていけないといけないのですが。先ほど言われた教育委員会とのやりとりは、管理職となっているので、何か報告を先生がするにしても、一旦は管理職を通して報告する。校長か教頭を通して、報告ということになるので、先生方がどこか出張に行って報告するという場合も、その先生方が、「直接、教育委員会に私行きますので。」っていうことはできないようになっています。そうすると、どうしてもたくさんの業務量が一本そこに集中してしまうということになっているので、一定仕方のない部分でもございますので、きちっと学校を管理していくっていうところでいくと連絡や報告等の管理というのはしないといけないと思うので。

三日月知事 校長、教頭、教務主任の間で、例えば事務を統括するような事務長的な方はいないのですか。

松浦課長 小中学校ではないですね。

三日月知事 教頭先生は1人ですか。

清水校長 ほぼ一人です。

三日月知事 よほど大規模だったりすると、2人いたりするわけですね。

藤田委員 大変建設的な御意見ありがとうございました。

私は立場上、企業人教育とかよく考えるのですが、これは本当に業界を超えて、みんなで考えていく課題だと思うのですよね。そうすると、この働き方改革そのものを通じて、日本は一体どういうふうになってくるのだろうということを考えることがあるのですが、結局、国もそうですけど、人材が枯渇したり人材に力がなくなったりしたら、国家は多分、必然的に衰退してしまうわけですね。ですから、幾ら企業が頑張ってみても、その基の人材をやはりしっかり作っておかないとだめだというふうに思います。

そういう意味で働き方改革と休みだけをとってみると、日本は365日のうち通常の指定休日として3分の1は大体休んでいるのですね。その上に有給とか特休とか、育休とかいっぱい出てきましてですね。余談ですけど、この間も会社で2年間休めますと言うのですよ。今は子育てもしないといけないから、せっかくだから大いに休ませて、しっかり頑張ってください。その代わり、「終わったらその分、みんなが支えているのやから、頑張りや。」って言って、励ましたらいいというような心がなかったら、休むことの権利だけを行使して、どんどん休み出すと、1年も2年もいなくても仕事回るとしたら、ひょっとしたらいなくてもいいのかなと、こういう気持ちになりますね。だからそうじゃなくて、それを受けている人たちが、しばらく休みますけれども、その間迷惑かけて皆さんも仕事分担してやるわけですからよろしくお願いします。周りの人も、しっかり育ててくれ、頑張るといような心がもし育ってなかったら、多分ですね、権利だけがどんどん先に行ってしまう。それは今の教育にも非常に重要だと思うのですね。なぜかという、世界の中の日本ということを考えますと、今日本の競争力は世界で、30位以下なのですね。東大も京大もそうですけど、世界の何十番であると。そういうことを考えていくと、そういうことを通じて、

どういう人を育てていくことが働き方改革につながっていくのだろうということを、みんなが考えていかないといかんというような気がいたします。

そう考えていくと、一つはですね、その制度ということと、ルールということを見ると、例えば今の業務報告っていうのも、あるいは留守番電話ですね、社内でうまくルール化をしておけば、相当ルール化によって、他にできる時間がいっぱい出てくると思うのですね。だからそういう意味では、業務上ルールということはどういうふうにもう標準化していったら、みんなでも知恵出すかっていうことは、大事だと思うのですよね。その結果、本来の教育に必要な人材の育成なんかにもうまく使っていくとか。

私も実は大学生のときに、教育実習に行ったのですが、そのときに指導された先生から、「教えるということは教えられることなのだ。だから学校行って教えられてこい。」と言われたのですよ。そうするとやはり1時間まともに教育しようと思うと、学生でしたから、何倍も勉強しないと1時間の講義をできないのですよ。ただ、担任の先生方を見ていると、コツを得ておられますから、この教科書のコツを分かっている人と分かっていない人では、相当違うと思いますけど。そういうことを考えると、やはり自己啓発の時間というのは、相当、働き方改革の外側で、かなりあると思います。それはやはり自分の自己成長につながっているんで、そこをどうこうする必要はあるか分かりませんが、相当の自己啓発時間があるということです。

もう1点はですね、スクール・サポート・スタッフの人が必要だし、大学でリカレント教育とかいろんなことあると思うのですが、リカレント人材の活用っていうのは、例えば団塊の世代の人が、どンドンリタイアしてくるわけですね。そこから先の後の人生の選択を、本人たちがどう考えるかっていうことは別問題ですけど、そこに教育とか子育てとかに携わってみたいと思っている人の人材バンクみたいなものがもしできれば。その人材バンクに、そういうことに自分の余生を使いたいなという人がいれば、そこからいろんな学校のニーズとマッチングできやすい可能性はあるかなと今ちょっと思っていました。団塊の世代の人、特に金融機関なんかは相当早く出てきますから、それはもちろんいろんな関連会社ですとか、いろんなところから出てくる人も多いのですが、やはり、全然違った職場でこういうことをしたいなということも、ひょっとしたらおられるかもわからないなという気がいたします。そういう意味では、ルール化することによって相当標準化できて、いろんなICTはもっと使えると思いますし、そこから浮いてくる時間というのをうまく使ったらよいかと思います。

やはり人材が国を支えていくわけですから、一生懸命よい人材を作っていくことが大事なことで、こういう議論を継続的にやっていくということが非常に

重要だと思います。

三日月知事 竜王町の公民館は、そういう役割を果たしているのですか。例えばシニア世代で、何か子どものために、学校のためになんかやれたらって人がいた場合に。

清水校長 竜王町の場合は、私の学校の2代前の校長先生が、昨年度まで、公民館の学校支援マネージャーをされていまして。やはり学校のこともよくわかっておられるので、そして地域の方ですし、たくさんボランティアの募集をされて、集めてこられて、その方々がまた学校へというような道筋をつくられましたので。今年からちょっと替わられたわけですがけれども、システムとしては残って機能しておりますので、学校としては、各学年からこういう人に来てほしいというのがあったら、それを公民館へFAXで依頼して、そしたら何月何日の何時間目に、何人この方が来ますっていうだけで。また、依頼が来て、その方は、「学校応援団です。よろしくお願いします。」っていうだけで、すっとなってこられて教室に行かれます。

三日月知事 登録されているスタッフというのは、基本的に教職のOBの方ですか。

清水校長 そうではありません。

三日月知事 例えばサラリーマンをしていた方とか。

清水校長 そうです。学校運営協議会の委員さんもおられますので、学校運営協議会の会長さんも、企業でずっと働いておられて、退職をして、今度は地域で関わりたいということで。その方とは週1回ぐらいで会って、次どうしていこうとか、来年度どうしていきましょうとか。私自身、竜王町は、校長をする前には勤めていた地域ではないので、余り分からないことが多かったのですが、その方が会長されていて、すぐに出会っていろんなお話をしながら、コミュニティ・スクールですので、地域の方々と一緒になって、学校運営をしているというような状況です。

三日月知事 湖南省にもそういう人材バンクのようなものがあるのですか。

松浦課長 コーディネーターの方が、段取りをさせていただきます。ボランティアの方が来てくださっても、「お茶とかそんなもん用意せんといて」って言われるのです

よ。ボランティアで来て、お客さんみたいな扱いじゃなくて、「私たちは力を貸しに来たんやから、お茶の用意をして先生らの手をとったらあかん」言って。そういう地域です。

藤田委員 それはすばらしいですことですね。

三日月知事 そのコーディネーターというのは、学校におられるのですか。

松浦課長 はい。学校ごとに1人または2人います。

三日月知事 それはどういう方がやったださるのですか。

松浦課長 それはもう随分前から、やはり元PTAの役員さんだとか、その当時の校長からお願いしたという形です。

三日月知事 その方々の年齢はいくつぐらいの方、まだ現役の方ですか。

松浦課長 職を持っておられる方もいらっしゃいますし、週2日とかの方もおられます。でも、ずっと学校にいてくださる方もいらっしゃいます。

藤田委員 私の友人も長浜西中でそれをやっているのです。聞いてみると、彼は定年になって、結局自分の後輩に貢献したいということでやっている。それは、やはり今おっしゃったように、学校とのつながりの中で作り上げているのですね。ハローワークというのは、働いて収入を得たい人たちのバンクですけど、そうじゃなくて、そういうことをしたいというか、地域に貢献したいという、そういう人脈がちゃんとある人は、「ちょうどいいからちょっと来い」とか言われますけど、そういうことが制度としてうまく動くようになるとよい。ボランティアの制度というのは国から限られた補助金でしかなくて、もうちょっとうまく動かせる可能性はあるかもしれないと思いますね。

三日月知事 だからといってボランティアだけに頼っていたり、頼りすぎたりすると、ボランティアの方もいるところといないところがあるので。高齢化の問題もあります。

藤田委員 ハローワークほど大きなネットワークでなくてもいいのです。地域版でそういうのがあって、登録されていると。そういうもので、「定年になったらちょっと

と地域で。給料はいらないので。」そういう人はいると思いますよ。

三日月知事 ちなみにスクール・サポート・スタッフとか部活動指導員っていうのも、会計年度任用職員になるのか。

教職員課長 市町で任用していただくことに対する支援ですので、市町がどう考えになるかということになります。

松浦課長 湖南省の場合は、部活動指導員はならない。

野村委員 公民館っていうのは、行政の中のどこの課になるのですか。

清水校長 竜王町の場合は、教育委員会の生涯学習課になります。

福永教育長 本日は3時半までという予定になっております。今、ボランティアの活用というのは、仕組みとして、それぞれの地域でやっておられるもの、良い仕組みは、まだ十分にできてないところに広げていければいいと思います。あと、いただきました報告、全てがなくなるわけではないのですけれども、それをいかに効率的というかですね、負担を少なくやっていくのかっていうのが、我々がいただいた課題の一つであると思いますし、その辺りは市教委さんともいろいろお話をしながらやっていくということでございます。

最後に、今お二人が、例えば小学校の現場で見ておられて、ICTの活用などで、もう少しこういう可能性があるのではないかというのが、ございましたら。今、竜王小学校でどのぐらいICT活用して授業をしておられるのか存じあげないで聞いておるのですけれども。何かございますか。

清水校長 先ほど若い先生方がどうしても教材研究に時間かかるということでしたが、逆にICTの活用は、若い先生がすごく得意です。動画、それから画像を取り込んで、例えば、堪能な先生でしたら、授業中にパッとノートをとって映すとか。黒板に書く時間が省略されますので、子どもの発表をすぐパッと映すとかもされて、これも柔軟に使われますので。

三日月知事 撮ったものを映す機器はあるのですか。

清水校長 あります。竜王町の場合は、各教室に天井吊りで、電子黒板機能付きのプロジェクターがついております。

三日月知事 この部分を拡大するというような使い方もできるのですか。

清水校長 できますし、デジタル教科書をそのまま電子黒板に映すこともできますので、それを上手に活用されている。だから先ほど言われたように、教材研究には少し時間がかかるかもしれないけれども、逆に授業の工夫も上手くできるし、そしてそれはまた若い先生方の授業のスタイルということになりますので、かえってベテランの先生方や私たちの方がうまくICTを活用できないので。そういうところでいくとやはり、竜王町の場合は、タブレット端末がコンピューター室の40台しか入っておりませんが、将来的に、子どもたちが例えば端末を持つようになれば、それはそれで特に、若い先生方を中心にした業務改善というか、働き方改革、それから授業づくり、それも質の高い授業づくりにつながっていくのではないかなというふうに思います。

松浦課長 竜王町から湖南省へ異動された先生は、そういう点ではすごく苦勞されているのではと。竜王町のICTの環境で、湖南省に来られると、十分ではないと感じられるかなと思います。子どもたちからは、結構トイレの洋式化っていう大きな声があつたりします。ICTは非常に大事なことだと思いますので、今、教育総務課の方で整えているところです。

藤田委員 大変大事なことで、ICT教育をやればやるほどインテリジェンスの水準が上げられると思いますし、あれはそもそもインテリジェントを大衆化していくのですね。大衆化するとはどういうことかという、表面上の知識は、非常に素早く手に入れるということが可能になります。でも表面上知っているということと、中身まで理解しているということは、ちょっと別なのですね。ですから、インテリジェントも進めば進むほど、心の教育もよくやっておかないといけない。本来の知識というのは、先生が教えなくても、ひょっとしたら学生のほうが、高学年になればなるほど、それを学んでいく、知識を得るというのが早いと思います。逆にその分、中身までよく理解しているかどうかということ、その人が将来成長したときによく理解し、考える力を持っていませんと、何かインテリジェンスに流されていくといいますか、例えば 아이폰 みたいなものに流れていくような知識になってしまう可能性がある中で、そこは教育していく上で非常に重要だなという印象です。

福永教育長 すいません。予定している時間が近づいてまいりました。今様々な御意見を、教育委員の皆様なり、ゲストで来ていただいたお二人から聞かせていただきま

した。特に、ボランティアの活用でありますとか、あるいは業務負担の更なる軽減などの御意見もいただきました。そういう中で、やはり一定、我々としては、小中学校、県立学校も含めまして、働き方改革は常に取り組まなければならない課題でございます、年度末に向けて今いろいろと会議もさせていただいておりますので、本日いただいた意見も十分踏まえながら、継続的な取組を、本日お越しでない17の市、町も含めまして進めてまいりたいと考えているところでございます。それでは最後に、知事から一言お願いします。

三日月知事 ありがとうございます。お忙しいお二人の先生にわざわざお越しただいで貴重なお話いただきましたので、二つのことを申し上げたいと思います。

一つ目は、県教育委員会から配るものは改善しましょうね。それぞれの課で、早急に配り方、市町の教育委員会から学校現場に、配りやすい形で配るように改善しましょう。

二つ目は、やはり一人ひとりの先生方が、目の前の子どもたちにもっと目と心を向けてもらえるように業務改善をする。そのための、例えばシステム的なこと、ハード的なこと、体制的なことを、継続的にしっかりと整えていくってということが大事だと思いますので、この点はもちろん県教委も頑張りますが、知事としても、いろんな面でサポートできるようにしたいと思いますので、今後ともよろしく御指導のほどお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

福永教育長 それでは、以上で第4回の総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。